

研 究 成 果 情 報		生産環境	8	果 樹	栽 培
新技術 情報名	自根の「清見」及び台木用カラタチの挿し木繁殖技術の開発	台木用カラタチの挿し		分 類	③

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

自根苗育成のための「清見」の発根に適した植物ホルモンの種類、濃度及び台木用カラタチの発根容易な系統、挿し穂の処理法等を明らかにした。

- (1) 「清見」は、挿し穂基部をオーキシンの浸漬処理することにより発根が促進される。発根促進効果の高いオーキシンの種類と濃度は、N A A は150ppm、2,4-Dは15ppm、I B A は150ppmである。
- (2) 「清見」の6月挿しの場合、挿し穂は春枝先端を利用すると発根率が良い。
- (3) 樹齢15～19年のカラタチ8系統のうちで「一才カラタチ」は発根が容易である。
- (4) 樹齢3年のカラタチ中葉系の1年枝を挿し穂に利用した場合、長さが8cmから20cmの間では、着葉数が多くなるほど発根が促進される。

2) 技術・情報の適用効果

- (1) 「清見」の自根苗が育成でき、接ぎ木労力の省略が可能となる。
- (2) カラタチの挿し木繁殖によって、均一な形質を持つ台木の生産ができる。

3) 適用範囲

かんきつ苗木生産地域及び研究機関

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 発根率は、採穂母樹の樹齢や、同一品種でも挿し木時期により異なる。
- (2) 冬季に挿し木する場合は加温が必要である。

2. 具体的データ

表1 オーキシンの種類と濃度が「清見」の発根に及ぼす影響(平成2年)

種類	オーキシン濃度 ppm	発根率 %	根長		
			~1cm 本	~3cm 本	3cm~ 本
N A A	15	21	5	4	19
N A A	150	24	5	5	35
N A A	1,500	15	9	2	15
2,4-D	15	32	18	9	40
2,4-D	1,500	28	16	25	36
I B A	15	8	7	4	2
I B A	30	17	7	2	13
I B A	150	38	12	8	49
I B A	1,500	12	6	1	11
無処理		2	0	2	0

注) ①樹齢 8年、挿し穂 1年枝
 ②2月挿し木、期間3ヶ月
 ③各処理液に数秒間浸漬
 ④根長は総発根数を示す
 ⑤用土：ハ^o-ライト、真砂土、イソライト
 ⑥供試本数98~101本
 ⑦温室内で育成25~10℃
 ⑧1日1回噴霧15分

表2 「清見」の挿し穂部位による発根状況(平成元年)

部位	発根率 %
先端部	78
中間部	32
基部	57

注) ①樹齢7年、挿し穂1年枝
 ②6月挿し木、期間3ヶ月
 ③IBA30ppmに20時間浸漬
 ④供試本数37本

表3 カラタチ系統間による発根の状況(平成元年)

系統	発根率 %
小葉系	60
中葉系	31
大葉系	43
広葉系	0
曲針系	25
1才カラタチ	73

注) ①樹齢15~19年
 ②挿し穂 1年枝
 ③8月挿し木、期間5ヶ月
 ④基部にル^o-トンを塗布
 ⑤供試本数13~33本

表4 カラタチ中葉系の発根に対する挿し穂長と着葉数の影響(平成2年)

調査項目	挿し穂長				着葉数		
	8cm	12cm	16cm	20cm	1枚	2枚	3枚
供試本数(本)	300	300	300	300	400	400	400
発根率(%)	26	18	23	22	9	30	50

注) ①樹齢 3年、挿し穂 1年枝
 ②7月挿し木、期間40日
 ③IBA150ppmに数秒間浸漬

3. その他特記事項

担当部科室名：果樹苗木分場 無病苗育成研究室

研究担当者名：堀江裕一郎、草野成夫

研究課題名：優良台木の早期大量増殖技術の確立

期間：平成元年~平成3年 予算区分：緊急技術開発

既発表論文・資料名等：平成2、3年度常緑果樹試験成績概要集

取りまとめ責任者名：堀江裕一郎